

# 探究通信

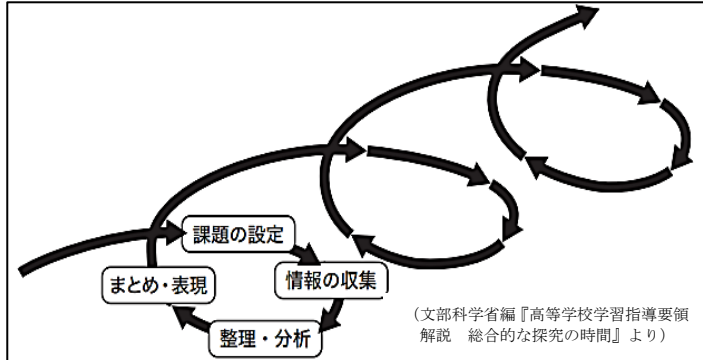
2022 (第1号)  
富山県立高岡高等学校

2022年4月発行  
編集 企画研究部

令和4年度が始まりました。1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。探究科学科へようこそ！「探究」の意義を再認識し、コロナ禍においても、「探究する心と力」を確実に磨いていきましょう！

## 「探究」活動とは？！

今年度(2022年度)高校1年生から全面実施の新しい学習指導要領では、改めて、「探究」の重要性が指摘されています。右図のように、「自身の疑問や社会における課題を発見し、それを解決するために問題解決的な活動を発展的に繰り返す一連の学習活動のこと」を「探究活動」と言います。学ぶことの楽しさを実感するとともに、持続可能な社会の形成者としても大いに期待されています。



- 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。
- 探究の過程を経由する。  
①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現
- 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

現3年生が探究科学科の10期生となります。高校での活動、学校生活そのものが探究活動ですが、探究科学科ではさらに、「TKE」や「TKR」の活動を通して、「探究力」を培ってきました。様々な活動に積極的に参加し、社会に出てから役立つ力を磨いていきましょう。

## WWL・SGH×探究甲子園2022に参加 -3月19日(土)-

令和4年3月19日(土)、「WWL・SGH×探究甲子園2022」(文部科学省 WWL コンソーシアム構築支援事業)が、昨年度に引き続きオンラインで実施されました。

探究活動プレゼンテーション部門に、2年探究科学科「課題研究」家庭科班の5名が参加しました。「家庭内改革～私たちのミライ予想図～」というテーマで、「課題研究」の成果を発表しました。アンケート調査の結果から、高校生世代が「男性は仕事・女性は家庭」という伝統的性役割志向を無意識的に引き継いでいることを指摘し、高校生の今から男女ともにライフスキルを高め、将来家庭内においてジェンダーフリーを実現するための準備をしようという提言をしました。

大学の先生から、先行研究の分析が成されていることや様々なデータを用いて実態を検証している点が高く評価されました。また、この研究を深める視点などのアドバイスをもらい、さらに探究心を高めました。



発表の様子

### 《参加生徒の感想》

- 課題研究で行ってきた研究の成果を、全国の場で発表するという経験ができてよかった。
- 課題研究で学び研究したことを、次は世界に視野を広げて応用して行くことが大切だが、それはそんなに難しいことではないと感じた。
- 全国には社会問題に真正面から向き合っている高校生がたくさんいて、若い世代の影響力が強い世の中になっていることを実感した。自分には何が出来るかを常に考えていきたいと思った。

## 1年探究科学科 科学探訪 in 富山 - 3月16日(水) -

令和4年3月16日(水)、探究科学科1年生が科学探訪に行きました。例年は東京方面での宿泊研修ですが、昨年度に引き続き今年度も、県内の博物館や研究所等を訪問しました。

下記の4分野に分かれ専門的なことを学ぶとともに、ふるさと富山の新たな一面に触れたり、社会課題を発見したりする機会となりました。各班の主な訪問先(研修先)は以下の通り。

### 【A班；自然地形分野】

魚津埋没林博物館、吉田科学館、  
黒部川扇状地・宇奈月地区地形観察(河口地形、河岸段丘等)

### 【B班；海洋資源分野】

富山県水産研究所(富山湾の魚や水産業の現状について講義)  
近畿大学水産研究所富山実験工場(陸上養殖施設の見学)

### 【C班；産業環境(交通)分野】

万葉線に乗車(志貴野中学校前～越の湯)→県営渡船に乗船  
(越の湯～堀岡)→新湊大橋を渡る(徒歩)→岩瀬散策・ライト  
レールに乗車(～富山駅)→いたち川・松川沿いを歩く

### 【D班；歴史文化分野】

高岡の町散策(古城公園・高岡大仏・坂下町通り・山町筋)  
→御車山会館(講義・解説)→高岡市内班別研修



【A班】  
「黒部の名水」は冷たい？！



【B班】  
マアナゴに餌をやる！



【C班】富山新港、万葉線、新湊大橋に  
まつわる意外な話が満載。



【D班】「高岡」といえば、前田利長公！  
古城公園内銅像前からスタート。

### 【生徒の感想】

【A班】扇状地と埋没林、十字石と宇奈月花崗岩、という一見全く関係がないように見えるものが実はつながっていることを知り、自然を構成する要素は互いに影響しあっているということを実感できた。また、海と山双方のレジャーや特産品を楽しめるという富山の魅力も発見できた。地学という学問を今後も学びたいと思った。

【B班】富山は魚が有名だとは知っていたが、その理由を考えてこなかった。今回二つの研究所で、富山湾の特徴と魚について学ぶことができ、富山の特殊な地形や、それを育む大自然、そして富山の漁業を活発にしようとする人々の偉大さに気づくことができた。自分を取り巻く環境に感謝し、日本や地元富山のことを真剣に考えようと思った。

【C班】富山新港が開発されるまでの経緯や開発後の土地利用とその課題について学ぶのが、特に面白かった。富山新港で発生している課題は、富山県内のみならず、全国各地で起こっている課題とのことで、未来を予測して開発することの難しさ、持続可能なまちづくりの難しさを知った。

【D班】私たちの班は加賀前田家と高岡の産業との関わりについて調べようと、御車山会館の後、鋳物資料館や鋳物工房、瑞龍寺などへ行った。それぞれの場所で多くのことを学ぶとともに、共通の課題(人口減少や跡継ぎ不足など)があることを知り、「高岡」を再認識できた。今何が求められているのか、何をすべきなのかを考えるよい機会となった。